

稻作

令和7年稻作を振り返つて
～豊年にも大凶作あり 気を付けて見よ～

生育概況

東北農政局より10月10日に令和7年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量が発表されました。10a当たり予想収量は県南で576kg、作況単収指数は103で前年より多くなっています。JA検査実績でも一等米比率は90%以上と品質も良好となっています。収量が良かったといふ声を聞きますが、振り返つてみると課題もあります。JAの助翁が残した言葉にありますように「豊年にも大凶作あり。気を付けて見よ」各自でも振り返りをし、良かった点改善が必要な点を洗い出し、次年度の対策としましょう。

覚えていますか？令和7年稻作

月	事柄
冬	積雪量は例年並み程度にあった。
3月	雪解けは3月中旬。
4月	4月は降水量が平年比158%、日照時間が平年比44.8%、気温は平年比+1.4℃、116%であった。 ほ場が乾かず、肥料散布、耕起がはからない。
5月	苗質は葉色淡く、やや軟弱気味。 苗焼けは少なかった。 田植え盛期は5/25(平年差+1日)。 前年のワラ、春先の下草(スズメノテッポウなど)、早くからワキが発生。
6月	軟弱苗でもあったことから、ワキ、除草剤の影響を受け、生育緩慢。 草丈長めで生育。6月後半から茎数回復(見かけ上の茎数が回復しただけ、弱勢茎多い)。
7月	生育ステージ前進、草丈伸長止まらず。 7/11宝風、葉色低下、生育シタつと止まる。 少雨、高温予報で追肥指導。 7/20頃から出穂したす株あり。 出穂期7/31、干ばつ被害発生。
8月	8/5から大雨。恵みの雨となる。 定期的に降雨。 8/19、9/2に上桧木内で大雨。ほ場に土砂流入。
9月	8月下旬から登熟緩慢に。 登熟期間中は、平均気温こそ高かった(平年比1~2℃高)ものの、最低気温が平年並みであったことで登熟は良好。 秋雨前線の影響により断続的な降雨。ほ場の軟化。コンバイン「わだち」発生。

皆さん気がついた点はありますか？気になった点は対策を考えましょう。



安心のネットワーク
NOSAI

JA秋田おばこ
このページは秋田県農業共済組合との共同発行です。

○育苗

稻を育てていく土台であるほ場の準備は、前年の稻刈り後から春先までに行わなければなりません。降雪期間を除いて秋から春にかけては「ほ場を乾かす」ことが第一です。明渠、サブソイラ等で積極的な排水・透水性改善をして乾田化を促進させます。異常還元発生抑制にも一役買います。

○中干し・溝切り

稻を育てていく土台であるほ場の準備は、前年の稻刈り後から春先までに行わなければなりません。降雪期間を除いて秋から春にかけては「ほ場を乾かす」ことが第一です。明渠、サブソイラ等で積極的な排水・透水性改善をして乾田化を促進させます。異常還元発生抑制にも一役買います。

○適期刈り取り

近年、初期生育遅延のため中干し開始が遅くなっています。8葉期からは中干しへの準備をします。高温のため生育前進する可能性があるので適期を見逃さないようになります。深水管理は8.5cm程度。深水管理後は飽水管理(間断かん水)とします。定期的に落水してガス抜きと土中への酸素供給をして異常還元対策をします。天候などによっては活着肥(酸)を施肥します。中干しは、飽水管理または間断かん水とします。溝切りは間断かん水とします。溝切りの効果はまさにこれから。高温時は地温を冷ますことを目的に水を入れ替えなどをします。また、地域全体で水を必要とする時期ですでの、外周溝切り跡へ水を素早く渡らせ、用水を次に回します。協力し合つて水回しをお願いします。

○斑点米カメムシ類

出穂までは、ほ場内と畦畔の雑草管理を徹底します。雑草がないところには寄つてしまふ。薬剤防除は出穂期10日後からが基本ですが、2回目防除の検討も必要です。雑草対策で発生密度を下げて、適期の薬剤で発生個体を対策します。

○ほ場準備

稻作基本技術八十八手の第一手

稻を育てていく土台であるほ場の準備は、前年の稻刈り後から春先までに行わなければなりません。降雪期間を除いて秋から春にかけては「ほ場を乾かす」ことが第一です。明渠、サブソイラ等で積極的な排水・透水性改善をして乾田化を促進させます。異常還元発生抑制にも一役買います。

○初期生育

疎植、小苗になりすぎていないか、栽植密度、植え込み本数の再確認を。5月末からの田植えでは、かき取り本数を増やすなどして、面積当たりの茎数確保する工夫も必要です。

○追肥

活着までは浅水管理(2~3cm)、その後深水管理(5~7cm)を1週間程度。深水管理後は飽水管理(間断かん水)とします。定期的に落水してガス抜きと土中への酸素供給をして異常還元対策をします。天候などによっては活着肥(酸)を施肥します。中干しは、飽水管理または間断かん水とします。溝切りは間断かん水とします。溝切りの効果はまさにこれから。高温時は地温を冷ますことを目的に水を入れ替えなどをします。また、地域全体で水を必要とする時期ですでの、外周溝切り跡へ水を素早く渡らせ、用水を次に回します。協力し合つて水回しをお願いします。

○紋枯病

近年、増加傾向にあります。7月下旬頃に発病株率が15%を超えたら本田防除が必要です。出穂前までに「モンカット剤、モンガリット剤、モンセレン剤」を散布します。また、箱処理剤で予防できるものもあるので、本田防除と組み合わせて使用します。

○いもち病

いもち病菌は稻わら、もみ殻に付着して越冬します。育苗ハウス周辺に放置しないようにしてください。種子消毒と育苗期防除、箱処理剤での防除を基本に、定量を確實に散布します。田植え後の余り苗の放置は伝染源となるため厳禁です。常発地や前年多発地では、箱処理剤を使用していくても、オリゼメート粒剤の本田追加防除も検討してください。

○いもち病

いもち病菌は稻わら、もみ殻に付着して越冬します。育苗ハウス周辺に放置しないようにしてください。種子消毒と育苗期防除、箱処理剤での防除を基本に、定量を確實に散布します。田植え後の余り苗の放置は伝染源となるため厳禁です。常発地や前年多発地では、箱処理剤を使用していくても、オリゼメート粒剤の本田追加防除も検討してください。